

11.7.25

大11.7.23

關西労働運動界に最古の歴史を有せる我が大阪鐵工組合は、終始一貫労働者の自治自主を主張し、抜く可からざる其の基礎と氣魄は、野心家の乗する寸毫をも與へず、彼等にとつて最も難物とする處のものであつた。

最近本組合が、全國労働組合總聯合運動起すや、極力之れが達成に努め、總ゆる努力を拂へるは天下周知の事實である。

吾等労働者は之れに關し、日本労働總同盟幹部に對して、左の二條件のいづれかを以て全國労働組合總聯合促進に資すべく追まつたのである。

- 一、下らぬ形式に囚れたり、種々の魂膽を廻さず、全然無條件で、誠心誠意提携し協力して總聯合を組織する事。
- 二、無條件で誠心誠意提携し得ない、團體の事情があるなれば、當事者團體双方解体して、勢力争ひや組合利益己心の根本を打破し、産業別労働團體を組織して、更に總聯合を組織する事

然るに、日本労働總同盟幹部は、總聯合運動の言ひ出しは俺だ、など、下らぬ事には力を入れるが、無條件で誠心誠意提携するの誠意なく本組合と提携を『好まず』などと明に小感情を露出し、更に解体要求に對しては『必要とあれば解体するの覺悟』などと高言しながら『解体を好まない』と稱するのである。

労働者はお互に互譲し提携し協力して行くのは、必ずしも本組合員に限らず總同盟の組合員も非組合員も等しく希望する處であらうと信するのであるが、斯くの如く提携協力を反對するのは、労働運動業者の所謂『職業心理』であると見るより外はない。

我等労働者は、職業的運動者及び其の傭兵に話し掛るの無用な事を知つた。吾等は純粹の労働者の立場から労働組合運動を考へねばならぬ。茲に臨時大會が開かれる所以なのだ。

大阪鐵工組合臨時大會

能ノ  
所  
レ  
三  
内  
理  
人